

平成 28 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
一般	10	01	03	104150	ニコニコ元気っ子事業	
総合計画	分野	人づくり				
	政策	3-1	子育て環境の充実			
	施策	3	就学前教育の充実			
目的	保育・教育の充実と小学校へのスムーズな接続を図る。					
対象	花巻市内の保育園、幼稚園の以上児					
意図	幼児期での体力・運動能力の向上に取組み、小学校の学校生活に適応出来る体づくりを行う。					
事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること						
○公立園での運動能力調査の実施 公立園で運動能力調査を実施、私立園へ用具貸出し ○市内園ごとに以上児を対象としたCOT教室の実施 年2回実施、市内対象園49園のうち33園参加						
市民参画の有無 [対象外]						
市民協働の形態		共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定		
		後援・協賛	補助・助成	委託		
活動指標 (上記「事業概要」に対応)		単位	区分	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
①	COT教室実施回数	回	計画	86	86	
			実績	70	68	
②			計画			
			実績			
③			計画			
			実績			
成果指標 (上記「意図」に対応)		単位	区分	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
①	COT教室参加園児数	人	目標	3,000	3,000	
			実績	1,927	1,766	
②			目標			
			実績			
③			目標			
			実績			
成果指標の達成度	目標値より高い		概ね目標値どおり	○ 目標値より低い		

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)	
成果指標を、COT教室に参加する園児が増えれば増えるほど、事業効果に直結することから、園児数とした。 法人立・私立の園では独自に体力向上の取り組み(リズム運動、少林寺拳法など)を実施しているためCOT教室は申し込みがない園もあって、目標よりも低い実績となった。	
目的妥当性	公共関与の妥当性 近年、小中学校での体力が全国平均を下回る等、市として解決に取り組むべき事項であること。
有効性	成果の向上余地 コーディネーショントレーニングの普及により、指導者が増えることにより、その対象児童が増えることから、成果向上が期待される。
効率性	事業費・人件費の削減余地 コーディネーショントレーニングについて、保護者、保育士、幼稚園教諭等に理解してもらうための講演会や指導者講習会の開催のための経費は当初多くの事業費を必要とするが、定着すればその経費が少なくて済む。
公平性	受益と負担の適正化余地 市内の保育園、幼稚園を広く対象とする事業内容であることから、適正であるといえる。
総合評価 …上記評価結果の総括	
幼児の体力向上については小学校へのスムーズな接続のため継続して取り組む。 26年度から3か年取り組んだコーディネーショントレーニングは、一定程度市内の園に認知、定着したことから28年度で終了するが、29年度からは「ニコニコ元気っ子研修」をはなまき保幼一体研修の中で立ち上げ、公立・私立園一緒に研修することにより市内一体で就学前の幼児の体力向上の取り組みを推進していく。	

平成 28 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業J-ト	事業名
一般	10	01	03	104150	ニコニコ元気っ子事業

単位：千円

		27年度 決算額(A)	28年度 決算額(B)	29年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		420	420		
財源内訳	国・県				
	地方債				
	その他				
	一般財源	420	420		

事業期間	○ 単年度繰返	期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
------	---------	------	-----------------

部経営方針における目標
子どもたちの健やかな成長を育む就学前教育の充実と家庭の教育力の向上

事業開始の背景・経緯
市内小学校の体力が、全国平均値より低下している項目が年々多くなる傾向にあるとともに、運動する子どもとしない子どもの差の拡大、肥満の傾向が見られる子どもの増加等、運動不足が原因と思われる現象が数多く見られることから、幼児期から何らかの対策が急務となっていた。

事業概要
○公立園での運動能力調査の実施
公立園で運動能力調査を実施、私立園へ用具貸出し
○市内園ごとに以上児を対象としたCOT教室の実施
年2回実施、市内対象園49園のうち33園参加

事業を展開する上での課題、留意事項 / 意見・要望等

担当部署 部名 教育部 課名 こども課 担当係長 佐々木 祐子 内線 930-342 (単位：千円)

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】

課題

要因

COTの特徴

小学校での体力・運動能力調査結果で全国平均より低い項目が年々多くなる傾向が見られる。

保育士等から見て、体の動きで当たり前に出ると思われる身のこなしが出来ない子が多くなっている。

肥満傾向の子どもの増加

運動をする子ども・運動をしない子どもの二極化(「運動嫌い」が増加)

自然遊び等による身のこなしを自然に習得する機会の減少

車社会の進行による歩く機会の減少

食生活の変化と、ゲーム等普及によるの室内遊びの増加

①子どもの年齢に合った理論に基づいたプログラムで実施
②単純な運動遊びを通じ、体を動かす楽しさや、やる気を引き出す
③体力・運動能力の向上の他、運動に必要な様々な能力が身に付けられる

導入

改善

期待される効果

運動嫌いの子ども減少
運動する機会の増加
授業時の姿勢の改善
肥満傾向の子ども減少

【平成28年度事業費の内訳】(予算) 全体420千円
①公立園での運動能力調査の実施
公立園で運動能力調査を実施、私立園へ用具貸出
②市内園毎に4、5歳児を対象としたCOT教室を実施
市内全園でCOT教室を年2回実施(対象園49園)
※外部のスポーツ団体(NPO法人SUMはなまき)に実施を依頼
※市内で有資格者を有するスポーツ団体はこの1団体のみ
(予算) 謝礼金：420千円 COT教室等謝礼金(2時間×3千円/1回当たり)